



琉球大学

第35号

同窓会会報

平成25年3月10日



千原キャンパス (説明27ページ参照)

目次

■会長あいさつ	2	■教育余話	18
■同窓会事務局情報	3	琉球列島の蚊と吸血嗜好性について	
・平成24年度定期総会概要	3	■母校情報	19
・平成23年度決算・平成24年度予算概要	3	・アドバイザーースタッフ派遣事業(地域連携部門)	
・平成24年度事業計画	3	■活躍する琉大生	20・21
・平成24・25年度役員	4・5	・沖縄学生ビジネスアイデアコンテストで 最優秀賞を受賞、二連覇達成！	
・平成24年度支部長会・各支部連絡先	6	・「平成24年公認会計士試験現役合格」を学長へ報告	
・「シンポジウム2012」実施報告	7	■文芸活動欄	22
・第41回沖縄の寮歌・大学の歌祭りに参加	7	・文芸投稿コーナー	
■琉球大学支援事業	8	・文芸活動紹介	
・琉球大学へ課外活動奨励金を贈呈		■平成25年度定期総会等開催のご案内	26
・平成25年度教員採用試験対策講座		・会費の納入について(お願い)	
・私の合格体験記		■退職される恩師紹介	27
・平成26年度教員採用試験対策講座計画	9	■事務局長紹介	27
■支部活動報告	10~14	■編集後記	27
■Interview	15~17	■会報第35号編集委員	27
野村流保存会会長 前川朝文氏		■表紙写真説明	27
沖縄県議会議長 喜納昌春氏		■平成24年度定期総会・懇親会集合写真	28
国頭村長 宮城久和氏		■同窓会役員及び事務局員名簿	28



会長あいさつ

琉球大学同窓会会長 幸喜徳子
教育学部体育科 昭和41年14期卒業

活気に満ちた同窓会活動を目指して

謹啓 菜の花が目に鮮やかなこの頃、琉球大学同窓会の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は同窓会活動へのご協力を賜り誠に有難うございます。

さて、本部では2012年度総会において定例の役員改選が行われ、一部新たな顔ぶれでスタート致しました。不肖私も2期目となりましたが、皆様のさらなるご指導・ご支援を仰ぎつつ、今後とも活気に満ちた会活動を展開して参りたいと存じます。何卒、引き続きご協力賜りますようお願い申し上げます。

昨年は従来、継続している教員採用試験対策講座も昼間から夜間講座へ時間帯を変更しました。同時に、琉球大学との連携事業の形態になり学生の利便性の向上を図っております。今年も講師の先生方や受講生のご意見・要望を伺いつつさらなる学生支援の充実を図ってまいります。

さらに本会運営に資するため、学長をはじめ大学経営幹部の先生方との意見交換会も実施することができ誠に幸いでございました。

恒例となりましたシンポジウムは「リーダーが語る職業と人生」をテーマとし、同窓生のみでなく一般県民にもご参加頂き開催いたしました。岩政学長の基調講演に続き、県内産業界リーダーのパネリストによるお話には聴衆は熱心に聞き入っておられました。好評のうちに終えることができましたことを皆様にご報告し感謝申し上げます。

本年度はシンポジウム2013「沖縄経済の可能性と夢」と題し、行政及び県内経済界で目覚ましい活躍をしておられる方々に明るい話題をお話いただく予定です。シンポジウム終了後の懇親会ではパネリストの皆様との交流も予定しております。多くの同窓生の皆様にご参加いただき、会を盛り上げて下さいますようお願い申し上げます。

結びに皆様のますますのご健勝、ご活躍、併せて琉球大学の更なるご発展を祈念申し上げます。あいさつと致します。

敬具

同窓会事務局情報

平成24年度定期総会概要

平成24年度の定期総会は右記の日程で開催されました。本年度も、昨年度のパネルディスカッションに引き続き定期総会と懇親会の間に「シンポジウム」を開催し、全日程を予定通りに終了することができました。

定期総会には約60人が出席し、新役員案を含む全ての議案が原案通り承認されました。質疑としては、教員採用試験対策講座について、受講者から何人合格者が出たのか、という質問があり、今後、事務局で可能な限り把握することと致しました。

懇親会には、多数の来賓も参加される中、東京を中心に全国的に活動している沖縄芸能集団「クイチャーパラダイス」の皆さんによる多彩な余興も披露され、参加者一同、終始和やかに楽しく過ごすことができました。

来年度も、今年度以上に参加者を増やし、皆で盛り上げて、お互いの記憶に残るような時間をもちたいものです。

期 日	平成24年7月28日
場 所	パシフィックホテル沖縄
支部長会	午後1時30分～2時50分
定期総会	午後3時00分～3時50分
パネルディスカッション	午後4時00分 ～6時00分
懇 親 会	午後6時00分～8時00分



平成23年度決算・平成24年度予算概要

平成23年度決算 (単位:円)	
(1) 収入総額	23,263,236
(2) 支出総額	10,709,342
① 運営費	5,311,648
② 事業費	5,397,694
③ その他	0
(3) 繰越金額	12,553,894

平成24年度予算 (単位:円)	
(1) 収入総額	24,854,894
(2) 支出総額	12,301,000
① 運営費	6,010,000
② 事業費	6,020,000
③ 予備費	271,000
(3) 繰越金額	12,553,894

平成24年度事業計画

年 月 日	事 業 計 画
平成24年	6月6日(水) 教員採用試験対策講座(4月18日開講～7月13日まで・6月/4回)
	19日(火) 役員選考委員会(第6回)
	21日(木) 三役会(第1回)
	27日(水) 三役会(第2回)
平成24年	7月2日(月) ホームページ更新
	4日(水) 教員採用試験対策講座(7月/8回) 評議員会(第1回)
	13日(金) シンポジウム実行委員会(第2回)
	14日(土) 関西支部総会
	15日(日) 医学部総会

年 月 日		事 業 計 画
平成 24 年	7月19日(木)	三役会(第3回)
	28日(土)	支部長会・定期総会・シンポジウム・懇親会
	8月3日(金)	シンポジウム実行委員会(第3回)
	4日(土)	宮古支部総会
	10日(金)	三役会(第4回)
	17日(金)	会報編集委員会(第1回)
	9月14日(金)	会報編集委員会(第2回)
	28日(金)	ホームページ更新
	10月12日(金)	三役会(第5回)
	19日(金)	会報編集委員会(第3回)
20日(土)	関東支部総会	
平成 25 年	11月16日(金)	会報編集委員会(第4回) 九州・山口支部総会 久米島支部総会
	30日(金)	ホームページ更新
	12月14日(金)	三役会(第6回)
	21日(金)	会報編集委員会(第5回)
	1月18日(金)	会報編集委員会(第6回)
	31日(木)	ホームページ更新
	2月8日(金)	三役会(第7回)
	11日(月)	沖縄寮歌・大学の歌祭り
	15日(金)	会報編集委員会(第7回) 奄美支部総会
	3月1日(金)	会報(第35号)発行
21日(木)	琉球大学卒業式出席	
29日(金)	ホームページ更新	
4月3日(水)	琉球大学入学式出席 入会金徴収、合格・入学祝・記念品贈呈	
12日(金)	三役会(第8回)	
5月10日(金)	三役会(第9回)	
	17日(金)	課外活動支援金贈呈
	22日(水)	琉球大学開学記念日(午餐会出席)
	31日(金)	ホームページ更新

新役員(平成24・25年度)が決まりました

平成24年2月6日に開催した第1回役員選考委員会からスタートした役員選考作業は、6月19日までに全体会合を6回、その間、候補者との面談や正副会長による協議などを重ね、役員選考委員会において各役員の候補者案を決定し、委員長から三役会に選考結果が報告されました。

この役員案は、評議員会及び定期総会において特に異論なく承認されました。その主な内容は次のとおりです。(役員名などの詳細は、役員一覧表をご覧ください。)

就任以来、広く地域社会を対象としたパネルディスカッションを開催するなど、積極的な会運営に取り組んでいる幸喜徳子会長に対する強い留任要望があり、結果、会長は留任(二期目)、副会長は5人中4人が改選、監査員は3人中2人が改選、評議員は50人中11人が改選という形で全役員が決まりました。

ご多忙の中、精力的に選考作業に当たっていただいた嘉手苺喜郎委員長をはじめ役員選考委員の皆さんに感謝するとともに、平成26年度の創立60周年に向けた記念事業の検討など新役員一体となって同窓会のさらなる活性化のため取り組んでいきたいと思っております。

今後とも会員の皆様のご支援、ご協力をお願い致します。

平成24・25年度琉球大学同窓会役員

*印新任 平成24年7月

役職	氏 名	卒業(期・年・学科)		役職	氏 名	卒業(期・年・学科)		
会長	幸喜徳子	14	41	体 育	高嶺朝勇	14	41	化 学
副 会 長	仲門勇市*	9	36	法 政	狩俣信子	15	42	法 政
	儀保博信*	14	41	社 会	仲筋一夫	15	42	化 学
	照屋寛八*	17	44	音 楽	上門清春	15	42	生 物
	幸地啓子*	23	50	商 学	比嘉善一*	15	42	教 育
	親川啓和	26	53	法 政	外間正典*	16	43	経 済
顧 問	富永元順	2	29	政 治	与那嶺清子	16	43	経 済
	市村嘉久	2	29	政 治	新城 勇	17	44	機 械
	安次富長昭	2	29	美 術 工 芸	與那原 峯子*	17	44	化 学
	大城盛三	2	29	英 文	照屋由紀子*	17	44	音 楽
	比嘉正幸	5	32	政治学及び法学	奥 キヌ子	18	45	家 政
監 査 員	赤嶺健治	8	35	英 文	中村一男	18	45	数 学
	波平 正*	23	50	商 学	島袋君子	20	47	体 育
	仲本喜一*	28	55	経 済	大城 清	20	47	英 語
評 議 員	長嶺恭子	33	60	経 済	上原正信	21	48	農 学
	森田恒勝	2	29	経 済	屋良 明*	23	50	商 学
	宮国義夫	3	30	法 政	玉城健治	24	51	経 済
	友寄賢吉	4	31	美 術 工 芸	上地英由	24	51	経 済
	津留健二*	4	31	政治学及び法学	上原信美*	24	51	経 済
	岸本一夫	5	32	美 術 工 芸	玉城 直	26	53	電 気
	高山朝光	6	33	社会及び経済	比嘉正幸*	27	54	短期大学部
	宇地原徳淳	6	33	体 育	當真良明	30	57	法 政
	友利徹男	6	33	生 物	高江洲昌和	30	57	経 済
	岸本金三	7	34	経 済	根路銘三恵	30	57	保 健
	宇垣和美	7	34	初 等 教 育	比嘉梨香	31	58	社 会
	上原政英	8	35	畜 産	上原 修	31	58	社 会
	嘉手苺喜郎	8	35	初 等 教 育	大湾知子	32	59	保 健
	宮城武久	9	36	電 気 工 学	渡久山秀治*	35	62	農 芸 化 学
	仲村渠良雄	10	37	体 育	増田昌人	36	63	医 学
前川朝文	10	37	初 等 教 育	平岡 孝*	36	63	経 済	
名嘉地用輔	12	39	経 済	前泊美紀	44	H 8	法 政	
上江洲公志	13	40	英 語	當真正姫		H19	法科大学院	
福里重盛*	14	41	化 学					

事 務 局	職 名	氏 名	卒業(期・年・学科)		
	事務局 長	比嘉忠信	18	45	経 済
	事務局 次長	大城朝憲	16	43	史 学
	総務部 長	大兼一夫	27	53	英 文

平成24年度支部長会

定期総会に先だって例年どおり支部長会が開催されました。

幸喜徳子会長の開会挨拶に続き、高山厚子関東支部長、上地安昭関西支部長、照屋常信九州・山口支部長、山田和憲奄美支部長、儀間周倫久米島支部長、親泊宗二宮古副支部長の諸氏から、この一年間の各支部の活動状況についての報告がありました。

(詳細はP10～P14をご覧ください。)



支部長会の様子

.....◇◇◇.....

支部長及び事務局長連絡先

支部(会員数)	名称	氏名	電話番号	住所・Eメールアドレス
関東(590)	支部長	高山厚子	03-6226-2200	〒104-0061 東京都中央区銀座4-9-6 陽光銀座三原橋ビル6F(中島信一郎法律事務所内) takayama2002@tgweb.net
	事務局長	宮城重哲	045-904-9071	miyagi1953@ybb.ne.jp
関西(150)	支部長	上地安昭	078-791-7054	〒651-2102 兵庫県神戸市西区学園東町6-15-6
	事務局長	小渡照生	0729-64-7237	nahatuboya282@yahoo.co.jp
九州・山口(100)	支部長	照屋常信	092-725-0617	〒810-0045 福岡県福岡市中央区草香江1-6-29-101
	事務局長	松下博文	090-5479-0268	matushita@chikushi-u.ac.jp
奄美(200)	支部長	山田和憲	0997-53-8384	〒894-0031 鹿児島県奄美市名瀬金久町22-9
	事務局長	岡村 誠	0997-54-2030	makototao@fiute.ocn.ne.jp
久米島(60)	支部長	儀間周倫	098-985-8956	〒901-3105 久米島町字根54
	事務局長	平田光一	090-782-5663	k-hirata@town.kumejima.okinawa.jp
宮古(300)	支部長	親泊宗二	0980-72-7324	〒906-0007 宮古島市平良字東仲宗根82-13
	事務局長	下地國雄	0980-73-3313	
八重山(200)	支部長	伊舎堂用八	0980-82-4238	石垣市登野城156

「シンポジウム2012」実施報告

定期総会の後、昨年のパネルディスカッションに続き、今年度も広く県民を対象として下記のとおり「シンポジウム2012」が開催されました。

基調報告をしていただいた岩政輝男琉球大学学長からは、職業の選択や仕事を発展させる工夫、リーダーの考え方と組織などについて、また、パネリストの各氏からは、それぞれの分野の経験、見識等に基づいた就職やキャリア形成についての示唆に富んだお話をさせていただきました。

当日は、昨年より参加者が少なく、また、若い世代があまり見受けられなかったのが残念ですが、参加者の間からも、「たくさんの若い人たちに聞いて欲しかった」「自分が若い頃に聞きたかった」などと、シンポジウムの内容の素晴らしさに対して若者の参加者が少ないことを残念がる声がしきりに聞こえてきました。

来年度は、シンポジウムの内容を充実させるのはもちろんですが、参加者、とりわけ、若者たちの参加を増やすよう、広報の拡充等方策を講じていこうと思います。

[1]趣 旨

県内の金融、マスコミ、産業界等で活躍するリーダーに、それぞれの分野における職業と人生を通じた報告や提言をしていただき、参加者が沖縄の地域社会の現状を把握し、夢を抱いて前向きに生きるヒントを得る。

[2]日 時 平成24年7月28日
午後4時～6時

[3]場 所 パシフィックホテル沖縄

[4]テーマ 「リーダーが語る職業と人生」

[5]基調報告者・パネリスト

(1) 基調報告者
岩政輝男氏(琉球大学学長)

(2) パネリスト

大城 勇夫氏(株式会社琉球銀行相談役)
佐久眞 章氏(沖縄プラント工業株式会社代表取締役社長)
高安 正勝氏(株式会社ぬちまーす代表取締役社長)
長元 朝浩氏(株式会社沖縄タイムス社論説委員長)
※コーディネーター
幸喜 徳子(琉球大学同窓会会長)



シンポジウム基調報告者とパネリストの皆さま

第41回沖縄の寮歌・大学の歌祭りに参加

第41回沖縄の寮歌・大学の歌祭りは、平成25年2月11日に浦添市でこホール(市民交流室)で開催されました。

当日は県内外19校の同窓生122人が各々の母校の寮歌や大学の歌を歌い合い、余興を交えながら楽しく交流を深めました。

琉球大学は、同窓会として参加し、幸喜徳子会長ほか12人が、例年のように「逍遙歌」と「雲よ湧け千原の空」の二曲を合唱しました。

本年は、昨年新しく同窓会副会長に就任した照屋寛八氏のアコーディオン伴奏の下、皆で力強く合唱した本学の模様が、一際異彩を放っていました。



琉球大学支援事業

琉球大学課外活動奨励金を贈呈

5月29日、幸喜徳子同窓会会長他役員が琉球大学を訪れ、岩政学長に対し学生の課外活動奨励金として100万円を贈呈しました。

同窓会は、平成元年から学生の「課外活動 奨励金」として毎年、琉球大学に寄付を行っているほか、教員採用試験対策講座を開設し在学学生、卒業生への就職支援も行っています。



左から岩政学長、幸喜同窓会会長、比嘉事務局長

「平成25年度 教員採用試験」対策講座

同窓会が、在学学生及び卒業生の就職活動支援事業として実施している教員採用試験対策講座は、4月18日に開講し、5人の講師により19回実施され、延べ432人が受講しました。

講座以外にも、二次試験対策として教育論文の添削・指導や面接指導、模擬授業の指導が行われたほか、志願書の書き方や自己アピール文の添削・指導が個人指導の形で実施されました。



開校式の様子

合格体験記

私の合格体験記



比嘉 学
2008年卒、56期
理学部 数理科学科

昨年度は臨時教員として勤務していましたので本格的な勉強は4月の中旬頃から行いました。自宅ではだらだらしてしまうので毎日朝から琉球大学図書館に通いました。勉強は専門である数学に比重をかなりおいて勉強しました。教職教養で使用したテキストは県内の予備校が発行している指導要領と教育法規の重要条文の空欄補充形式の問題集です。一般教養は範囲が広いので手を付けませんでした。また50周年記念館で行われている試験対策講座に通い、いただいた試験の傾向の資料なども活用し、勉強しました。

試験勉強で一番苦労したのが小論文対策でした。1次試験の合格通知が届いた後から予備校の直前講座に通いました。その時に本格的に論文対策を始めたので、思うように書ききれず苦しかったです。小論文は早めに取り組んだ方が良く実感しました。

私が大切にしていたことは「勉強にメリハリを付ける」ということです。勉強だけをしているとどうしてもモチベーションが下がってしまうので、スポーツや遊び、飲み会、青年会活動などは積極的に参加するようにしました。試験まで期間は長いのでそのようなメリハリを付けることが大切です。また、「落ちたらどうしよう」とマイナス思考に陥りがちになることがありますので、「合格したら何しよう」とプラス思考になるようにしていました。さらに、一緒に勉強する仲間を持つことも大切です。試験の情報交換ができ、仲間からの良い刺激ももらえます。その点でも他校種・教科がいる同窓会の試験講座は私にとっては大きな刺激になりました。

これから教師を志すみなさん、試験勉強は辛いことも多いですが、それ以上に得るものの方が大きいです。肩肘張らずに息抜きもしながら取り組んでください。

最後に同窓会講座では多くの先生方に支えられ、親身に相談に乗っていただきました。また、現場の声や教壇にたったときの心構えなど試験対策以外のお話も聞かせていただきありがとうございました。

平成26年度 沖縄県教員採用試験対策講座計画

平成25年4月から実施予定

No.	月/日(曜)	指導内容	指導講師	講師略歴	種	
	4/17(水)	開講式			一次対策	
1	4/17(水)	教育公務員と教員特例法等	津留健二	元県教育長		
2	4/24(水)	学習指導要領概説				
3	5/1(水)	一般教養Ⅰ・練習問題	上江洲公志	元高校長		
4	5/8(水)	一般教養Ⅱ・練習問題				
5	5/15(水)	一般教養Ⅲ・琉球歴史Ⅰ・練習問題	比屋根為勝	元小学校長		
6	5/22(水)	一般教養Ⅳ・琉球歴史Ⅱ・練習問題				
7	5/29(水)	教育法規Ⅰ・概要と体系・練習問題	仲里一彦	元高校長		
8	6/5(水)	教育法規Ⅱ・教育基本法				
9	6/12(水)	教育法規Ⅲ・教育法規練習問題				
10	6/19(水)	教育法規Ⅳ・学校の設置と就学				
11	6/26(水)	教育法規Ⅴ・教育法規練習問題				
12	7/24(水)	自己アピール文の作成と指導	神元正勝	元高校長	二次対策	
13	7/25(木)	教育論文の書き方				
14	7/26(金)	教育論文の作成と添削指導				
15	7/29(月)	学習指導案の作成と添削指導				
16	7/30(火)	模擬授業の仕方と実践				
17	7/31(水)	模擬授業の仕方と実践	津留健二	元県教育長		
18	8/1(木)	教育施策等関連と面接受験指導			上江洲公志	元高校長
19	8/2(金)	英文自己紹介文作成と面接				
20	4/17(水)～ 4/24(水)	志願書の記入添削と指導	神元正勝	元高校長	総合指導	
21	7/24(水)～ 8/21(水)	総合指導・二次受験指導 ①教育論文の作成と添削指導 ②自己アピール文の作成と添削指導 ③英文自己アピール文と面接指導 ④学習指導案の作成と添削指導 ⑤模擬授業の実践指導	神元正勝 ほか 神元正勝 ほか 上江洲公志 ほか 神元正勝 ほか 神元正勝 ほか			

【時間】毎回18:00～19:30 【場所】50周年記念館多目的室A・B

【連絡・問合せ先】〒903-0213 西原町字千原1番地 琉球大学同窓会(事務局長 比嘉忠信)

電話:098-895-8039/FAX:098-895-8163 Eメール:r-dousou@to.jim.u-ryukyuu.ac.jp

支部活動報告

関東支部

支部長 高山厚子

◆第25期 活動報告(2011年10月～2012年10月)

- 2011年10月16日 第18回(平成23年度) 総会&懇親会 開催
- 2012年01月20日 第1回幹事会(兼:総会反省会) 開催
- 2012年03月10日 第2回幹事会 開催
- 2012年05月12日 第3回幹事会 開催
- 2012年05月13日 第14回ゴルフ大会(関東沖縄経営協と合同) 開催
- 2012年07月14日 第4回幹事会 開催
- 2012年07月28日 同窓会本部定期総会・懇親会 支部長参加
- 2012年08月11日 第5回幹事会 開催
- 2012年09月15日 第6回幹事会 開催
- 2012年10月20日 第19回(平成24年度) 総会&懇親会 開催

=== 第19回総会&懇親会 ===

第19回総会は、琉球大学側から大城肇副学長、同窓会本部より幸喜徳子会長と比嘉忠信事務局長のご臨席の元、同窓生併せて40名ほどのご出席を頂き盛会裏に終了することができました。総会後は懇親会に移り、昨年好評であった本村陽一氏のオペラや例年通り「クイチャーパラダイス」(主宰:仲本光正氏)の沖縄民謡と大いに盛り上がりを見せました。又、「久米島の久米仙」から美味しい泡盛が毎年提供されているが、出席者全員が大いに舌鼓を打っていました。

今年からは例年あった2次会を廃止し、又懇親会では出席意義を高めるために参加者全員に自己紹介や近況報告をして頂きました。

<http://www.seepa.jp/u/ryudai-dousoukai-kantou/>



定期総会・懇親会の様子(10月20日)

関西支部

支部長 上地安昭

第23回目の関西支部定期総会は、2012年7月14日に大阪市大正区で行なわれました。例年にならい、日時は7月の第2土曜日午後6時から、場所はいつもの沖縄料理店「おもろ」でした。今回は、岩政輝男学長のご臨席を

たまわり、同窓会本部からは幸喜徳子会長及び比嘉忠信事務局長をお迎えして盛大に開かれました。学長のご臨席が2年前の記念総会以来ということもあり、支部会員の出席者は会場いっぱいの27人を数え、近年に

ない賑やかな会になりました。新顔はなかったものの10年ぶりや数年ぶりの顔が多数揃いました。ちなみに、来賓を含めた参加人数は2年前の20周年記念総会が56人で最も多く、この特別な年を除く10年間の推移を見ると、2003年24人、翌19人、27人、21人、28人、28人、30人、そして前回は22人、今回は30人となります。

また、『支部会報』5号も前回同様、支部総会に合わせて会報編集委員会によって手造りで発行されました。編集委員会では表紙を世界遺産シリーズで飾る予定だそうで、前回は首里城跡、今回は識名園の写真が表紙を飾っています。

恒例の秋の親睦昼食会は、11月23日に丹波篠山「王地山公園・ささやま荘」で実施されました。この催しも3年ほど前から「勤労感謝の日」の祝日を使うよう定例化しています。今回で16回目を数えますが、毎回の行き先は9月の役員会で検討され、決定しております。大阪からほど良い距離にあり、温泉に入れて、一人当たり5000円程度で宴会が楽しめることを条件に選定して行くのですが、回を重ねるにしたがい難しくなります。そこで、大阪を中心に時計回りで方角を決め、「水辺の温泉」の次は「山間の温泉」というふうに変化を持たせた場所選びを心掛けております。

さて、当日の参加者は26人(小学生2人を含む)。この催しは家族の参加も

可としている)で、前回の最高記録19人をあっさりと抜いてしまいました。大阪駅から電車で1時間余、篠山口駅に着いたらあいにくの空模様で、土産物を物色したり、小雨に煙る篠山城を散策したりと、各自自由な時間を過ごしたあと会場に向かいました。丹波篠山といえば「でかんしょ節」に「ぼたん鍋」が有名ですが、今回はいつもの会席料理と違いはじめて鍋を囲む昼食会となりました。開会の挨拶で、金城盛紀顧問が秋の叙勲で「瑞宝中綬章」を受章されたことが紹介され、和気あいの宴会に思わぬ祝賀のムードが加わりました。さらに、珍しい料理に舌鼓を打つあいまに恒例となった山城賢孝顧問の万葉講話もあり、有意義で楽しい一日があつという間に終わりました。



定期総会・懇親会の様子(7月14日)

■ 学部・学科同窓会 ■

- 医学部医学科同窓会総会・懇親会(福里重盛副会長出席)
平成24年7月15日(日) / ラグナガーデンホテル
- 商学経営学友会総会・懇親会(幸地啓子副会長、比嘉忠信事務局長出席)
平成24年10月29日(月) / ザ・ナハテラス
- 保健体育科同窓会・懇親会(仲門勇市副会長、比嘉忠信事務局長出席)
平成24年11月17日(土) / 琉球大学北食堂

九州・山口支部

支部長 照屋常信

今後も続けたい「ミニ講演会」

九州・山口支部は、平成14年4月、十数名の者が博多駅近くの料理屋に集まって産声を上げてから早いもので11年目を迎えています。当支部の活動は、毎年1回開催している定時支部総会及び懇親会のみですが、回を重ねるごとに参加者も少しずつ増えています。

ところで、当支部の特徴として、会員のほとんどが沖縄の本土復帰後の卒業生で、沖縄県外の出身者ということでしょう。沖縄の本土復帰から40年余が経過し、当然のことながら、同窓生も各界で主要な役割を担いつつ活躍していて、頼もしく思っています。

そこで、一昨年からの試みですが、支部総会の持ち方に少しアクセントを付けたいとの思いから、支部総会の機会に、各分野で活躍中の会員の中から特定の方をお願いして約30分間程度の「ミニ講演会」を持つことにしたところ、これがなかなか好評です。

参考までにこれまでの実績を紹介すると、平成22年度総会においては、当支部事務局長で筑紫女学園大学教授松下博文氏に「詩人山之口巖の研究から」との演目で、平成23年度総会においては、香川県から遠路駆け付けてくださった香川大学農学部准教授東江栄

氏(同氏は、現在も当支部会員)に「塩生植物の耐塩性機構・アイスプラントの有用性について」との演目でそれぞれ講演していただきました。

この企画は、各会員に対し、講演者の職場やより具体的な活躍状況を知らしめるだけでなく、新鮮な刺激を与えるもので極めて有益であります。当支部メンバーを見渡したとき、講演候補者に事欠くことはなさそうなので、これからの支部総会においてもその企画を継続して行きたいと考えています。



総会・懇親会の様子

.....◇◇◇.....

奄美支部

支部長 山田和憲

琉球大学史学会奄美大会記念市民講座を開催

第45回琉球大学史学会奄美大会が平成24年11月23日・24日に宇検村及び奄美市で開催されました。(琉球大学史学会会長は豊見山和行教育学部教授)

当初、史学会の予定としては、23日の宇検村でのシンポジウムと24日の奄美市文化センターでのセミナーでしたが、シンポジウムやセミナーでは、研究者や専門家に限られ一般市民には縁の遠い雰囲気です。せっかくこのような学術会が奄美で行われる機会があるのに、一般市民が気軽に参加聴講できるような市民向けの教養講座が開催できないか琉球大学同窓会奄美支部から依頼したところ、こころよくお引き受けいただき11月22日に奄美市で実施することになりました。

そして、この市民講座も琉球大学史学会奄美大会の一連行事として奄美市及び教育委員会にも共催団体として協力を得ることができました。

市民講座は、奄美市の中心市街地にある集会施設「アイアイ広場」で夕方の午後6時から開催。講師は豊見山和行教授、演題は「近世の奄美・琉球史を見直すために―海上交通・民間交易・異国体験―」で私たち奄美に身近な演目で受講者も熱心にメモを取る姿には、真剣さがうかがえました。

主催は、琉球大学及び同窓会奄美支部でしたので、開会の挨拶では、「琉球大学同窓会の立場から申し上げますと琉球大学には奄美から大島高校をはじめ各島々の高校から進学する学生がかなりおりましたが、

近頃は、大島高校でさえ1学年当たり10人を切る入学者でここ数年5人から7人程度の合格者となっております。

沖縄はここ奄美と気候風土、文化等かなり似通っており、あまりギャップを感じません。特に、琉球大学は全国規模で見ても大きな総合大学に分類される国立大学です。」とPRもけっして忘れてはいません。

奄美には、大学等の高等教育機関が無く(3年課程の専門学校はあるのですが)、大学の授業等の雰囲気味わえる機会も少なく(鹿児島大学のサテライト教室等あり)、また、進学も本土の大学を志望する傾向が強いような感じがします。

ぜひ島の多くの学生に琉球大学へ興味を持ってもらいたいと思い、大島高校をはじめ大島北高校、奄美高校の生徒たちへも大学の講義のアカデミックな雰囲気を味わってもらえるよう案内をいたしました。

市民講座への参加者は、50人程度あり、市民の関心

も高かったのですが、高校生の参加は、3人と期待した人数(せめて10人程度は...)よりも少なかったのが残念でした。しかしながら、このような催しができたことに感謝し、今後とも琉球大学の市民への啓発、会員相互の親睦に努めて参りたいと思います。



市民講座の様子

.....◇◇◇.....

久米島支部

支部長 儀間周倫

平成24年11月27日に、平成24年度支部総会を開催しました。同窓会本部から幸喜会長、比嘉事務局長がご出席され、大学と同窓会の近況報告や会員への激励をいただきました。

今年度の支部の主な活動は、以下のとおりです。

平成24年

3月16日 上江洲均氏(会員)東恩納寛惇賞受賞祝賀会

3月21日 琉大在学生山城みずえ、新里みなみ(教育学部2年生)と久米島高校生との進学懇談会
平成24年琉球大学久米島出身合格者 奨励金交付

5月23日 評議員会 新会員歓迎、学校管理職との意見交換

9月4日 評議員会 琉大留学生ホームステイ受入について

9月20日～23日 琉大留学生ホームステイ6名受入

小中学校で子供たちと交流

韓国学生 女性2名

中国学生 男性1名、女性3名

10月18日 評議員会 支部総会について、留学生ホームステイ受入報告
その他、会員による福島原発事故被害児童受入支援

11月27日 平成24年度支部総会

開会行事

講話:久米島高校の現状と展望

講師:半嶺通男(会員・久米島高校校長)



定期総会・懇親会(11月27日)の様子

2012年度宮古支部活動状況報告

2012年度宮古支部の総会は8月4日午後4時から開会。11年度の活動報告や12年度の活動報告計画などが提案され、ほぼ原案どおり可決されました。12年度は役員改選の時期に当たります。次の方々が選出されました。

- 親泊宗二(会長) 長浜幸男(副会長)
 - 下地國雄(事務局長) 立津元勇(広報)
 - 長浜博文(会計) 善平明昇(会計監査)
 - 池間博明(会計監査)
- 評議員には島尻弘他23名が選出されました。

具体的活動状況

1. 会員相互の親睦について

①忘年グラウンドゴルフ大会と懇親会

12月17日 午後3時～ 参加者15名
好プレー、珍プレー続出で「和気あいあい」のうちにゲームを終了した。懇親会は午後6時から市内の喫茶店で行いました。参加者それぞれの想いが語られる中、宮古島名物のオトーリも回り、おおいに盛り上がりしました。総会までもう一度計画しています。

②囲碁大会について会員からの要望で開催を予定しています。

2. 琉球大学との連携強化について

これまでは、総会時の記念講演として琉球大学の職員を招聘して講演をお願いしてきましたが、今回は同窓会員の砂川博秋氏(宮古島市総合博物館友の会)を講師に依頼しました。「宮古島の蝶の生態」という演題で講演をしていただきました。



定期総会・懇親会(8月4日)の様子

3. 地域におけるボランティア活動(親子教室)について

- ・8月20日 平良児童館(囲碁、剣玉教室)
参加者 生徒30名 園職員3名 同窓会員3名
活動内容 剣玉の基本(大皿、中皿、小皿への乗せ方)
親泊宗二(会長)を講師にして、多くの子供達で賑わいました。
 - ・8月24日 福嶺小学校(剣玉、草笛教室)
参加者 生徒7名 保護者4名 学校職員1名
同窓会員3名
講師 親泊宗二(会長)指導で、父母、生徒が剣玉と草笛に挑戦しました。
 - ・8月29日 ふたば保育園(囲碁教室)
参加者 生徒40名 指導員7名 同窓会員3名
講師 親泊宗二さん指導で園児が真剣に対戦していました。
 - ・12月23日 狩俣小学校(おもしろ科学実験)
参加者 生徒18名 保護者4人 学校職員2名
会員3名
講師 徳原兼松(同窓会員)指導で楽しく学んでいました。
 - ・2013年1月6日 狩俣小学校(木材加工教室)
参加者 生徒10名 保護者4名 学校職員1名
同窓会員3名
講師 下地國雄(事務局長)指導で、糸鋸盤を使用して動物の形を5つ程切り抜きました。
- ※「親子教室」の実施を希望する学校が出ています。今年中に対応を考えています。



グラウンドゴルフ大会(左上)と親子教室の様子

Interview

琉球大学卒業後、各方面でご活躍の同窓を紹介します。野村流保存会会長前川朝文さん、県議会議長喜納昌春さん、国頭村長の宮城久和さんのお三方です。学業のほかサークル活動などに精を出していた青春のころを振り返っていただきました。



国指定重要無形文化財 組踊保持者
県指定無形文化財・沖縄伝統音楽野村流保存会会長
前川朝文

1962年卒 10期
教育学部 初等教育科

県指定無形文化財・沖縄伝統音楽野村流保存会会長の前川朝文さん(74)も琉大の同窓生です。幼いころから三線に慣れ親しんできたという前川さんは、教職の傍ら、芸を積み重ね、昨年は、琉球古典舞踊の大家、島袋光裕氏を顕彰した賞も受賞しました。今年11月30日には自身5回目となる独演会(那覇市民会館)も予定されています。そこで歩んだ道の一端を紹介すべく、インタビューを行いました。

●まず琉大での学生生活を教えてください。

私は1958年に入学し、62年に卒業しました。教育学部でした。大学では郷土芸能クラブに入部しましたね。このクラブは歌三線部門、琉舞部門、琉歌研究の3つの部門があって、月に1回は合同研究がありました。大学祭で発表したり、琉米親善センターで公演したりしましたね。

当時は60年安保ということで、これに関連してアイゼンハワー米大統領が来沖するという出来事がありました。学生を含め多くの方が、来沖を阻止するんだということでデモに参加したものです。当時琉大の学生会長は確か、幸喜良秀さん(演出家)でした。私は出身が久米島だったこともあって、大学のころは男子寮で住んでいました。

大学の先生は米留帰りが多く、アメリカの学生の話をよく聞かされたものです。

をよく聞かされたものです。

●ところで三線との出会いはいつですか。

私の出身地は久米島町の嘉手苅ですが、そこはとても芸能が盛んなところで、戦前から村芝居やエイサーがありました。おじが村芝居の頭を務めていたこと、また私の家にも三線が二丁ありました。さらに当時、家には蓄音機がありました。私は蓄音機で、古典音楽の先達である伊差川世瑞や多嘉良朝成のレコードを聴きながら、三線を弾くのが好きでした。

小学5、6年のころから、学校から帰ってきたら三線を弾く生活をしていました。自分でカンカラ三線を作ることもありました。青年会活動ではエイサーの地謡もやりました。小さいころから音楽になじんできたためにできたことです。

●大学でも三線をやったんですね。

そうですね。これまで独学でやってきたので、「これはいかん」と思い、琉大の郷土芸能クラブに入ったわけですよ。大学でサークル活動する傍ら、月謝を払って学外でも三線を習いました。私は真境名元義先生に教わりました。その後、幸地亀千代先生、伊波義雄先生に就きました。伊波先生のところで私は師範免許をいただきました。伊波先生の自宅のそばには宮城美能留先生の歌舞団もあり、そこで地謡を務める機会にも恵まれました。東京の日比谷公会堂で公演することもありましたね。

●大学卒業後、教職に就きますが、そこで三線関係はどうでしたか。

ひとつお話ししたいのは、いまでこそ小学校の運動会では普通になっているエイサーのパランカーですが、あれを最初に始めたのは私が与儀小学校に赴任したときです。当時は太鼓がないので、ベニヤ板でそれを代用していました。これから各学校に広がっていったんですよ。

●そうなんですか。ところで教育関係では何か思い出はありますか。

そうですね。郷里の久米島に教頭で赴任した際、私が小学校4年のときの恩師からハガキが届き、「教頭就任おめでとう。君の使命は郷里の生徒のレベルを上げることだよ」と記されていました。その言葉を受け、私は郷里で、校長、教頭の管理職を目指す先生たちを

対象に研究会を作り、活動しました。その後本島に戻りましたが、研究会の中から22人が試験に挑戦し、18人が管理職になりましたね。

惜まず、人のために尽くす。この言葉を恩師から学びました。三線の伊波先生からも、頼って来る人には「(力を)分きていあぎれー」と言われましたが、今老人福祉センターから3つも三線教室の依頼があり、ポ

.....◇◇◇.....



沖縄県議会議長
喜納昌春
1972年卒 20期
法文学部 法政学科

県議会の第16代議長、喜納昌春さん(65)は、琉大の20期生。議長室に飾られた歴代の議長、安里積千代、星克、大田昌知氏らの顔を見るにつけ、職責の重さが伝わってきます。喜納議長に琉大当時の思い出などを聞きました。

●学生時代はどのような状況でしたか。

復帰運動が真っ盛り的时候了なね。私は1968年の入学で、卒業は72年。68年には三大選挙といわれた行政主席選挙、那覇市長選挙、立法院議員選挙がありました。当時は嫌でも政治に関心を持たないといけない時期でした。「4.28」に関連して学科討論会とか、沖縄問題の学習会が大小さまざまな規模であり、まさに政治的な活動が盛んでした。

●沖縄社会が騒々しかった時代ですね。

そうですね。屋良行政主席時代2.4ゼネスト騒動がありました。それに絡んで開南交番焼き打ち事件もありました。僕らはヘルメットはしない学生でしたが、たまたま現場にいて、逃げ遅れたために、機動隊に殴られたり、追い散らかされたり、大変でしたよ。私は法政学科でしたが、政治学の先生が「君らはここに座っているのか、現場を見てきなさい。しっかりかかわらないとウチナンチュじゃないよ」というような趣旨のことをおっしゃって、自主休講になることもありましたね。新左翼が大学の土木ビルを占拠して、機動隊が初めてキャンパスに投入されるのも見てきました。4年間そんなことばかりやってきた思い出があります。

●大学祭の思い出などは。

そうですね、当時の学生会が移動琉大祭ということで、初めて久米島に行き、久米島高校や地域ぐるみの歓

ランティア精神で頑張っていますよ。忙しくて手が回らないですね(笑い)

●人生哲学は？

まあ、そうですね。「人生には3人の師あり」ということを実感しますね。私は芸能の師、教育の師、それから健康の師(医師)がいますね。これは大事だと思います。(文責:上原 修)

迎を受けたことを覚えています。地方とも刺激を分かち合うというか、そういう取り組みもありましたね。

●学問のほうはどうでしたか。

講義とは別に、私は憲法問題研究会に入っていました。この研究会は照屋寛徳さん(現・衆院議員)が初代会長でした。私は1年のときから在籍していて、その後第4代の会長を務めました。今はもうないですが、当時は多い時で14、5人くらいの研究会でした。

それと日米安全保障条約などをテーマにした安保研究もやりましたよ。何回かテーマを決め、これも4年間やりましたね。

●ほんとに時代を感じさせますね。ほかには。

ベーターベン研究会にいまして、これも1年から4年間やりましたね。

●そうですか。ぼくらの時代(79-83年)もこのサークルはありましたよ。

2年の時は会長もしましたが、70~80人はいましたかね。ほとんど女性のサークルで、教員を目指す学生たちだったと思います。那覇の琉米文化会館では第4金曜日がベーターベン研究会の担当で、レコードコンサートをやりました。一般の文化人も参加していましたね。今に比べると文化活動も少ない時代、生演奏も少なかったからね。

●ついでにお聞きしますが、ダンスパーティーもありましたか。

ありました。サークルで主催して、婦連会館などでやりました。入場料が25セントだったのを今でも覚えていますよ。

●話は変わりますが、恩師の思い出は。

金城秀三先生、宮里政玄先生などがおられました。それこそ格調高い勉強をしたと思っています。国際法では日本の中でも屈指といわれた新城利彦先生がおられました。先生は占領中における琉球政府のためにいろいろと提言をしたという話でした。琉大は当時、ミニ総合大学と揶揄されましたが、「県内で役立つ人材を育てる」という意識が相当強かったと思います。

●学生のレベルはどうでしたか。

当時は米留(米国留学)や国費・自費制度での本土派遣があったが、沖縄に残る人も卑屈にならず、内と外の者がお互い刺激し合って、いろんな意味で相乗効果があったと思います。それぞれが培ってきたものを沖縄に還元するという雰囲気でした。地元でいえば、アメリカに支配されながら、琉大をつくったという気概はすごいと思います。本土から27年間も分断されながらも、それを乗り越えて琉球政府立の琉大をつくった。琉大が歩んだ歴史は重い。そのような大学はほかにはないんじゃないですか。ほんとに誇りに思いますよ。

.....◇◇◇.....



国頭村長
宮城久和
1969年卒 17期
法文学部 社会学科

●学生時代の思い出

私は、沖縄が本土に復帰する前の1964年、東京オリンピックの年に入学しました。社会学科には17人が入学、福祉専攻とマスコミ専攻がありました。私は新聞記者を目指してマスコミ研究会で「琉大タイムズ」を発行しました。教官は後に沖縄県知事になる大田昌秀先生でした。大田門下生の一人ですが、あまり勉強せず出来の悪い生徒の一人で今も恥じ入っています。サークルは中国語倶楽部で、夏休みに台湾で合宿をしたりして語学の習得に励みました。片言程度の中国語しか話せませんでしたが、これがのちに一つのエポックにつながります。

●村長になるまでの職歴など

1年遅れて大学を卒業しました。記者を希望していた地元の新聞社と沖縄放送協会(OHK)を受け、両方とも一次は合格し最終的にOHKに入局することになりました。本土復帰に伴って日本放送協会(NHK)に身分が移行され、大分、松江、大阪、東京などで34年間、記者を中心に報道の現場で仕事をしてきました。大阪局勤務の頃阪神淡路大震災に遭遇し、発生から復興までの3年間神戸の移り変わりを放送で発信できたのは貴重な体験になりました。NHKを定年で退職した後故郷の国頭村に誘われ助役、副村長を一期務めました。そして副村長を辞めた後上海で単身9か月過ごしま

●講義のほうは。

単位は必要以上に取りましたね。2浪して入学したので、「学びたい」という気持ちが旺盛だったと思います。

●最後に喜納さんの方から何かありますか。

琉大生は破天荒ではないが、自由自在に生きてきたと思う。学生が必要な時に塩とか、肥料を与えるというか、個性を伸ばす先生方がいらした。今思えば、沖縄戦を経験され、いろんな思いを持った多くの先生がおられた。琉大の歴史をもっと大事に、語り継いでもらいたいと思いますよ。(文責:上原 修)

した。おととの東日本大震災の頃でした。中国での生活は学生時代から思い描いていた夢で、中国の若い人たちに日本語を教えながら躍進著しい中国を肌で感じてきました。

●村長になってからの主な事業

沖縄本島の最北端に位置する国頭村は面積の84パーセントが亜熱帯照葉樹林の森に覆われていて、最大のテーマが豊かな自然を生かした村づくりです。国頭村は森の持つ癒しの効果が体験できる「森林セラピー基地」として沖縄県で唯一カ所認定されている地域で、副村長時代から散策路の整備などを進めてきました。沖縄本島最高峰与那覇岳の登山コースもあります。比地大滝の散策路もあります。(去年の台風で道路が壊され今年5月の大型連休前までは入山できません)。

「和を以て尊しとなす」がモットーです。人の和、地域の和を大事に多くの人たちの考えや提言を踏まえて住民参加型の住みよい豊かな国頭村の未来に向けて全力で取り組んで参るつもりです。

●後輩に一言

学生時代、遠洋マグロ漁船に一航海乗りインド洋ではえ縄漁を体験しました。勉学は当然ですが、幅広い知識を身に付けるため社会のいろいろなことに挑戦する気概を持ってほしいと思います。

(文責:儀保博信)



琉球列島の蚊と吸血嗜好性について

医学部保健学科教授
當間 孝子
 昭和45年卒
 農学部農芸化学科4期

私は長年にわたって琉球列島や東南アジアの蚊の形態や生態について研究をしてきた。琉球列島にはこれまでの私達の研究で72種の蚊が記録されている。その80%は東南アジアと共通種であり、蚊相はアジアの様相を呈し、特産種(10種)も多いのが特徴である。本列島の100倍の面積を有する日本全体には110種が生息しているが、狭い琉球列島に多種多様な蚊が生息していることがわかる。

蚊を知らない人はいないと思うが、じっくりその姿、形を観た人は少ないと思う。顕微鏡下で観ると、白、黒の鱗片(蝶でいう鱗粉)が体に付いている種や、金、銀色の鱗片、中には光沢のある青、緑色の鱗片が付いている種などがあり、実に美しい。しかし、蚊は人の血を吸うので嫌われものである。その上、マalaria、日本脳炎、デング熱などの病原体を人に伝播するのでなおさら嫌われる。蚊は病気を人に伝播するために血を吸っているのではない。次世代を得るために雌だけが吸血する。人畜の高級な栄養分・血液(blood meal)を充分得て、卵巣を発達させ、一度に100余りの卵を水溜りに産む。この様に吸血行動は雌蚊にとってはなくてはならない生活の営みの一つである。ほとんどの蚊は動物を吸血するが、人畜の血を吸う蚊ばかりではない。さらに、どんな動物でも手当たり次第吸血するのではなく、蚊も種類により好み(吸血嗜好性)がある。

琉球列島に生息する蚊の約80%の種が沖縄本島北部(やんばる)や西表島の森林内に生息しており、多くの蚊の吸血源動物については良くわかってなかった。最近のDNAの分析技術の発達によって、吸血蚊の胃の中の血液がどの動物由来なのかを解析することが比較的容易になってきた。

琉球列島各地の森林内で、最近5年間に35種、約900吸血個体を集め、DNA分析をした結果、興味深いこと



白黒の模様があるヒトスジシマカ(水田英生氏撮影)

が明らかになってきた。昼間、庭に出ると直ぐに吸血にくる白黒模様のヒトスジシマカはヒト、イヌ、ネコなど、夜家の中に入ってくる茶色のネッタイエカはヒト、ニワトリなどを吸血していた。森林内の樹洞の水溜りに幼虫が生息しているリバーズシマカはイノシシ、コウモリ、カメなど、林内の溪流に幼虫が生息しているマックフアレンチビカはカエル、イモリを、マングローブ地帯のアナジャコの巣穴に幼虫が生息するカニアナヤブカは魚(トビハゼ)を吸血していた。

この様に哺乳動物や鳥類の温血動物を好む蚊、冷血動物のみを好む蚊、温血動物から冷血動物までの幅広い吸血嗜好性を持つ蚊、実に様々で興味深い。

益々充実!
 パシフィックのホテルライフ。
 ○全385室の客室 和食、洋食、中華、郷土料理、鉄板焼のレストラン
 =無料駐車場350台完備=
パシフィックホテル沖縄
 〒900-0036 沖縄県那覇市西3丁目6番1号 ht(tp://www.pacifichotel.jp
 TEL(098)868-5162(代) FAX(098)868-8876 E-mail gm@pacifichotel.jp

～未来への希望をともに育てませんか～
 アドバイザリースタッフ派遣事業(地域連携部門)

琉球大学教育学部では、地域の学校との共同研究や授業づくり等の学校支援を行っており、地域との連携の推進に力を入れています。

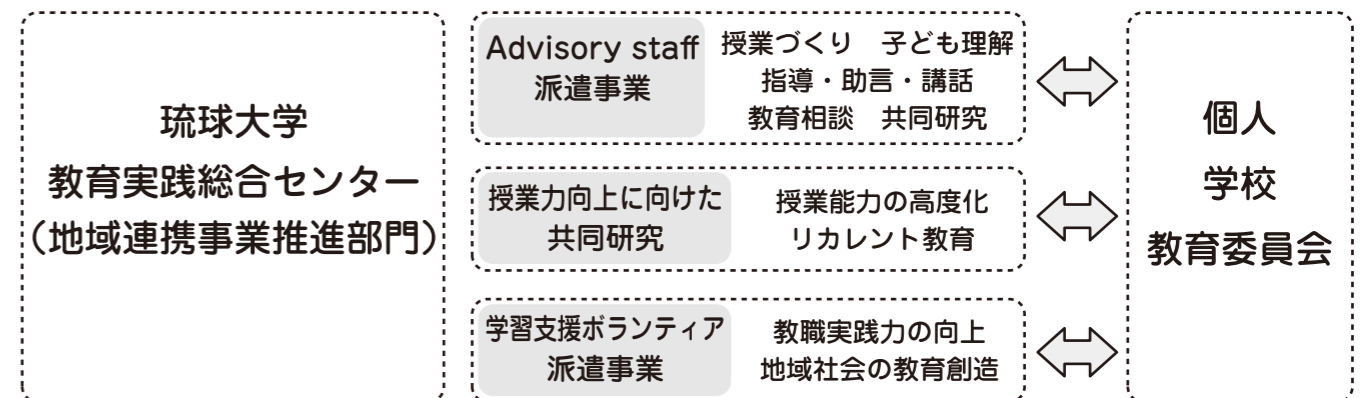
地域連携部門では、大学と学校及び地域社会との連携の推進に向け、教員等のスタッフを地域の学校に派遣する事業等を通じて先見的な教育・研究の成果を発信するとともに、情報の収集・公開を行い、教育に関する最新情報のハブとしての機能を担っていきます。

開始から今年で3年目を迎えるアドバイザリースタッフ派遣事業は、地域連携部門の代表的な取り組みになっており、その主な趣旨として次の4つが挙げられます。

- ①大学と地域社会が連携することで、大学の先見的な研究活動の成果を地域に還元する。
- ②学校教育現場の様々な教育課題を把握・理解し、その解決に向けて地域の要請に応える。
- ③この活動で得られた知見や情報をもとに更なる研究を進め、より質の高い教員養成の実現に生かす。
- ④教員の生涯を通じての資質・能力の向上に資するべく新たな研修のあり方を追求する。



県・市町村連絡協議会準備会の様子



活躍する琉大生

琉球大学の学生として、明確な目的意識と強い使命感や向上心を持って勉学面に止まらず、課外活動や資格取得、ボランティア活動などで幅広く活動し、エネルギーに学生生活を送っている皆さんを琉球大学ホームページの記事(「アクティブ学生」)から紹介します。

沖縄学生ビジネスアイデアコンテストで 最優秀賞を受賞、二連覇達成!



徳嶺あかり
観光産業科学部4年

昨年3年生だった私は、学生ビジネスアイデアコンテストで最優秀賞をいただきました。4年生になった今年も同コンテストで最優秀賞をいただき、二連覇を達成することができました。

それ以降、周囲の方々からたくさんのお褒めの言葉をちょうだいしましたが、私自身は二連覇したことに満足はしていません。なぜなら、アイデアだけでは価値がないことを知っているからです。

昨年、最優秀賞をいただいたアイデアは美容室などの空き予約の時間とユーザーの空き時間を繋げるというアイデアでした。

受賞後、アイデアを企画書だけで終わらせるのではなく実現したいと考え、企業へ企画を提案したりア

プリ開発研修への参加をしたりしました。しかし、実際にビジネスにするのは難しく、多くの失敗を経験しました。

昨年の活動で私が学んだのは、「アイデアだけでは価値がない」「何事もなってみないとわからない」ということです。どんなに自分で最高のアイデアだと思っても、実際にユーザーに使ってもらわないとそれがいいものかどうかはわかりません。ユーザーの声を聞き、それをサービスに反映させることがビジネスなのだ気づかされました。そして今年、新たなビジネスアイデアを企画し、再び最優秀賞をいただきました。アイデアだけでは価値がないと知りながらもコンテストに出品した理由は、ともに実行者になってくれる仲間や支援者を見つけたいと思ってか



らです。

現在は、コンテストで出会った方々にご協力いただきながらサービスを開始する準備をしています。残り

少ない学生生活ですが、アイデアの実現に向けてできることはすべてやりたいと思っています。とにかく行動するのみです。

.....◇◇◇.....

「平成24年公認会計士試験現役合格」を学長へ報告

金融庁の公認会計士・監査委員会から「平成24年度公認会計士試験」の合格発表があり、本学観光産業科学部産業界経営学科の学生2人が現役合格しました。在学中の合格は琉球大学にとって初めての快挙であり、琉球大学の関係者だけでなく、多くの県民にもやる気を与えてくれる偉業であります。12月26日、牛窪潔 観光産業科学部長、上江洲由正 同学部ゼミ担当指導教授が同席し、岩政学長へ報告しました。

中村竜瞳 (なかむら りゅうどう)
観光産業科学部

4年という短い期間勉強していたため、合格を勝ち取ったときの喜びは入(ひとしお)でした。また、成果を出せたという意味で安心感も大きかったです。支えてくださった家族、先生方、大学、友人の皆様には感謝してもしきれません。その思いを忘れず、これからも日々精進し、会計のプロフェッショナルとして活躍したいと思っています。



上原行雲 (うえはら いくも)
観光産業科学部

今回、会計士試験に合格することができて非常にうれしく思います。これはひとえに大学の先生方をはじめ支えてくれた周りのみなさんのおかげであり、感謝しています。これからはプロフェッショナルとして国内外を問わず活躍できるような公認会計士になるため、慢心することなく日々精進していきたいと思



ピープルズバンク

Ⓢ 沖縄銀行

頭取 玉城 義昭

<http://www.okinawa-bank.co.jp/>

新中糖産業株式会社

代表取締役社長 福里重盛

〒903-0103 沖縄県西原町字小那覇 628 番地 1
TEL. (098) 945-3311
FAX. (098) 835-8179

文芸活動欄

～文芸投稿コーナー～

【短歌の部】

暮れなすむ 億首河口に潮の満ち
ヒルギの林に 秋韻わたる (安仁屋升子)

湧水の 深く澄みたる水底に
化石のごとく 海老は生き継ぐ

屋嘉トンネル 抜けて展げる山辺の
伊集の花咲く 里へ入り行く (新城裕子)

吾がネーム 記して放ちしオオゴマダラ
平和の使者と なりて翔びゆけ

【俳句の部】

甘藷の花 風をとらえて 走り去る (仲門勇市)

エイサーの 指笛鳴らし 親子かな

【川柳の部】

惚れる字が 惚けるに変わる 老いの春 (大城肇)

レントゲン 診察できぬ 胸のキズ

どうしようかい 老壮だけの 同窓会 (比嘉忠信)

「七・三」を 七本・三本で 仕上げられ

女子会に 妻を取られて 一人酒 (加賀美英志)

ゴメンネが 言えずに今も 独り者

～文芸活動紹介～

第45回龍樋書道展が開催されました

龍樋硯心会(会長:仲村善郎/1973年卒)は、平成24年8月21日～26日の間、那覇市民ギャラリーで「第45回書道展」を開催、多くの参観者が会場を訪れました。

同会は、1967年に琉大書道クラブとそのOBにより「書の芸術的探求と会員相互の親睦を図り、沖縄の文化の発展に貢献すること」を目的として結成され、現

在は、琉大卒業生で会の趣旨に賛同する者は会員になれるような規約になっているそうです。

初代会長の金城瑞石氏(1957年卒)は、「会の結成以来、書道展が45年間も途切れずに開催されたことは他に例がなく、琉大卒業生の結束力の強さの賜である」と、感慨深く述べていました。

投稿のご案内

琉球大学同窓会では、『会報第35号』から会員の投稿欄を設けました。会員の皆さんが、一人一人違う感性で日々の暮らしの中で感じたことを短文や定型で表現した作品を広く紹介することにより、投稿する人、それに目を通す人それぞれの人生がより豊かになる一助になれば、と考えるからです。

投稿の内容は、短文の「私も一言/暮らし雑感」、定型の俳句や短歌、川柳を紹介する「文芸コーナー」で、どちらもテーマは自由です。(第35号では文芸作品を紹介しています)

その他、投稿については次のとおりです。

◎「私も一言/暮らし雑感」は、500字(25字×20行)以内

◎「文芸コーナー」は、俳句や短歌、川柳いずれも1人5句以内

投稿作品は、同窓会のホームページにも掲載する予定です。会員各位の積極的な投稿をお待ちしています。(なお、選考の結果、投稿作品が掲載されない場合もありますので、あらかじめご了承ください。)

【お問い合わせ/作品提出先】

琉球大学同窓会事務局 (西原町字千原1番地)

電話: 098-895-8039 / FAX: 098-895-8163

Eメール: r-dousou@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

OKINAWA KAIHO 海邦銀行
代表取締役頭取 上地 英由

おいしい幸せ オキコ
http://www.okiko.net

安全快適な環境を提供し おかげさまで40周年
株式会社 沖縄ダイケン
代表取締役社長 金城 秀雄
〒901-2131 沖縄県浦添市牧港2-54-2 TEL(098)876-5910

RYUKYU AWAMORI KUMEJIMA'S KUMESEN
久米島の久米仙
優しい島風の 爽やかな旨さ
お酒は20歳になってから。妊産婦の飲酒はお控えください。お酒は適量に。

なが〜いおつきあい
りゅうぎん
 琉球銀行

代表取締役頭取 金城 棟啓

ヒトのチカラが、
 電気を届けます。



電気ってどこからくるんだろう？
 ある日、家の前の電柱で作業をしている人を見かけた。
 そんな時ふと、我が家の電気はいったいどこからくるんだろうと考えた。
 そもそも電気がどこで、誰が作っているのか考えたこともなかったし、空気のような存在で、普段何気なく使っていた。
 そんな目に見えない電気をどこかで作るヒトがいて、どこからか送るヒトがいる。
 ある時は海を隔てた遠く離れた島へ繋ぐヒトがいて、そして、こうして電気を送る道を一生懸命守っているヒトがいる。
 そう考えるとそんな作業員の背中が急に頼もしく見えた。
 24時間365日。ヒトのチカラが今日も我が家に電気を届けている。

地球のエコと大切な家族のために
EMの県産品

EM研究機構
 TEL 098-935-0202
www.emro.co.jp



EM天然消臭剤 **ピセーブ** EM健康飲料 **EM・X GOLD** 土壌改良材 **EM・1**

ガスで節電!

ウィズガス 街に暮らしに ちゅらエネルギー



代表取締役社長 宮城 諒

住所: 沖縄県那覇市西3-13-2 TEL.098-863-7730



～学生・教職員の大学生活を応援します～

【琉球大学ロゴマーク入り商品もあります】

- 事業内容: 食堂・旅行(各種割引航空券あります)・書籍・就職支援・部屋の紹介など
- 琉大ロゴマーク入りオリジナル商品: 「60周年記念泡盛ボトル(2種類)」 「60周年記念切手シート」 「琉球ガラスのグラス(各色)」 「ノート」 「3色ペン」 「琉球松軸のペン」 「クリアフォルダ」 「ハンカチ」 など。購入については下記までお問い合わせください。

琉球大学生生活協同組合

TEL: 098-895-2620 琉球大学内 HP: <http://kyushu.seikyoku.ne.jp/ryudai-coop/>

月刊 写真ニュース誌
オキナワグラフ
 THE OKINAWA GRAPH

新報生活マガジン
 琉球新報副読誌 **うない**

総合印刷・出版・記念誌
新星出版株式会社
 代表取締役社長 神谷俊明

〒900-0001 沖縄県那覇市港町2-16-1 (琉球新報開発ビル2F)
 TEL. 098-866-0741 FAX. 098-863-4850
 E-mail: ssyuppan@nirai.ne.jp
<http://www.s-syuppan.com/>

県産食肉と消費者を信頼で結ぶ!

株式会社 **沖縄県食肉センター**

代表取締役社長 上原 正信

〒901-1203 沖縄県南城市大里字大城1927番地
 TEL (098) 945-3029 FAX (098) 945-3742
<http://www.pig-osc.jp/>



沖縄のIT総合サービス企業
 株式会社 **りゅうコム**

本社 〒900-0015 那覇市久茂地1丁目7番1号
 琉球リース総合ビル11階
 TEL: 098 (867) 2584 FAX: 098 (867) 2583
<http://www.ryucom.co.jp>

平成25年度定期総会等開催のご案内

期 日 平成25年7月20日 土曜日
場 所 パシフィックホテル沖縄 (那覇市西町3-6-1/電話:098-868-5162)
日 程 支 部 長 会 午後1時30分～午後2時50分(80分)
 定 期 総 会 午後3時00分～午後3時50分(50分)
 シンポジウム2013 午後4時00分～午後6時00分(120分)
テ ー マ 「**沖縄経済の可能性と夢**」
 基調報告 能登 靖氏(内閣府沖縄総合事務局経済産業部長)
 パネリスト 上地 英由氏(株式会社沖縄海邦銀行 代表取締役頭取)
 下地 清吉氏(有限会社沖縄長生薬草本社 代表取締役)
 澤岬カズ子氏(株式会社お菓子のポルシェ 代表取締役)
 渡口 彦則氏(社団法人沖縄県高圧ガス保安協会 会長)
 コーディネーター 幸喜 徳子 (琉球大学同窓会会長)
懇 親 会 午後6時10分～午後8時00分(110分)

会費(入会金・終身会費)の納入について(お願い)

初春の候、同窓会員の皆さまには変わらずご健勝のこととお喜び申し上げます。皆さまには、平素から同窓会活動へのご支援・ご協力を頂き衷心より感謝申し上げます。

本同窓会は、昭和29年(1954年)12月に創立され、来年は還暦の60周年の節目の年を迎えます。創立以来この間の諸先輩方を始め、会員の皆さまのご理解・ご協力により、今や本同窓会は7万余の会員を抱える県内屈指の大きな団体になっており、会員は県内外で広く活躍しております。

本同窓会には、会員が相互の絆を保ち、親睦を深めながら情報交換を行う場として地域ごとに支部同窓会(7支部)、学部・学科同窓会(12)が置かれており、連携しながら活動していますが、それぞれにさらなる活動の強化を目指しているところです。

さて、本同窓会は、会則第5条(会員)の中で「本会は、琉球大学(短期大学を含む)卒業生、修了者及び在学生をもって組織する。」と規定しております。

この規定により本会の会員となった方には、新入生には「入会金」として「1万円」、卒業生には「終身会費」として「1万円」を納入して頂いて同窓会の活動資金にしております。

私たちの母校琉球大学は、平成16年に国立大学法人に移行しました。これを期に母校が、国内でも特色ある大学として、また、地域における知の拠点として

さらなる発展を期し、地域の発展により寄与するようになるためには、同窓会を含め地域の支援と協力がこれまで以上に重要になっております。

以上のような観点からも、本同窓会においては資金基盤の強化が求められているところであり、経費の節減と併せ、必要な取組みを行っているところであります。

つきましては、以上の状況をご理解賜り、出費多端な折、誠に恐縮に存じますが会費(入会金・終身会費)の納入についてご協力を下さいますようお願い申し上げます。

なお、本同窓会の事業の概要は次のようになっております。併せてご覧下されば幸いに存じます。

- 1 同窓会報の発行・送付(年1回)
- 2 在学生に対する課外活動費補助(大学への寄付を通じて)
- 3 学生・卒業生への就職活動支援(教員採用試験対策講座開設)
- 4 大学への支援・協力(募金活動、記念行事の共同開催等)
- 5 同窓会支部活動の支援(活動費補助・組織強化等への協力)
- 6 地域・県民を対象とする事業(パネルディスカッション・シンポジウム等の開催)
- 7 その他

退職される恩師紹介(平成25年3月31日)

法文学部 教授 岩橋 法雄	教育学部 准教授 松野 義雄	医学部 教授 外間登美子
法文学部 教授 平良 征史	理学部 教授 宇地原敏夫	医学部 准教授 高嶺 房枝
法文学部 教授 高良 倉吉	理学部 教授 林 大五郎	工学部 教授 伊良波繁雄
観光産業科学部 教授 上地 恵龍	理学部 教授 比嘉 松武	工学部 准教授 伊良部邦夫
教育学部 教授 泉 恵得	理学部 教授 宮城 雄清	工学部 准教授 渡嘉敷直彦
教育学部 教授 糸数 武博	大学院医学研究科 教授 砂川 元	熱帯生物圏研究センター 教授 馬場 繁幸
教育学部 教授 永山 哲男	医学部 教授 當間 孝子	熱帯生物圏研究センター 教授 前川 秀彰

事務局長紹介

比嘉 忠 信

(法文学部経済学科 1970年・第18期卒)

事務局長に就任した昨年3月以降のほぼ1年を振り返り、「各地域で活躍しているいろいろな分野の同窓生と知り合いになり、いい刺激になって毎日が充実している」と言う。

平成24年3月に事務局長就任。昭和23年、具志川村(現久米島町)生まれ。久米島高校から琉球大学に進学。本土復帰の2年前に卒業後、琉球政府(当時)職員となる。

40代以降の大半を国際交流と米軍基地関係の業務に従事し、米軍基地の視点を通して沖縄の現状と将来方向を考える機会を仕事として与えられたことは、人生での大きな経験 だったと言う。宜野湾市にも出向し、普天間飛行場の問題に携わった。

今後は、同窓生からの刺激もエネルギーにして、できるだけ多くの同窓生が自然体で参加できるような活動が地域社会への恩返しという意味からも、楽しくできるようになれば、と思っていると抱負を語った。

趣味はいろいろあって三日坊主で身につかない、と謙遜。今、やっているのは、三線とガーデニング、川柳(作句・鑑賞)、格言収集など。昨年、同好の士で川柳同好会「川柳楽会(がっかい)」を立ち上げ、会員募集中。

【編集後記】

第35号の編集に際して、編集内容に新たな視点を加え、より多くの会員が馴染み易い会報にするために、事務局としては従来の編集方針を踏襲しつつ、次の三点をポイントにして編集作業に当たることになりました。

- ① 編集委員を10人に増員し、継続5人・新規5人の構成で、これまでの編集 経験を生かしつつ、新たな視点で編集すること。
- ② 従来、会報一回の編集に限定していた委員の任期を二年とし、編集経験を次回に生かすようにすること。
- ③ 投稿欄(意見・文芸活動欄)を設けて、意見・雑感の投稿や短文の文芸作品の投稿ができるようにし、会員

平成24年度(会報第35号)会報編集委員

編集委員長	儀保 博信
副委員長	上原 修
編 集 委 員	上原 正信 狩俣 昇男
	大兼 一夫 玉城きみ子
	大城 朝憲 友利 徹男
	加賀美英志 前泊 美紀

表紙写真説明

面積は千原地区1,123,616㎡、上原地区139,169㎡で、学生は学部学生7,298名、大学院生(修士)651名、大学院生(博士)361名、教官系職員859名、事務・技術系職員828名である。(琉球大学概要平成24年度版)

平成 24 年度定期総会・懇親会



.....◇◇◇.....

同窓会役員及び事務局員

会長	幸喜徳子	事務局長	比嘉忠信
副会長	親川啓和	事務局次長	大城朝憲
	儀保博信	総務部長	大兼一夫
	幸地啓子	書記	與那城政子
	照屋寛八		
	仲門勇市		

.....◇◇◇.....

琉球大学同窓会会報第35号

編集発行 琉球大学同窓会
〒903-0213 沖縄県西原町千原1番地
Tel : 098-895-8039 Fax : 098-895-8163
E-mail : r-dousou@to.jim.u-ryukyu.ac.jp
HP : ryudai-dousoukai.jp

印刷 新星出版株式会社